

## IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第53回会合 発言録

2024年8月26日

【加藤】 それでは、そろそろ予定時刻を過ぎましたので、第53回目のIGFの活発化会議、開催させていただきたいと思います。

皆さんお集まりいただきまして、ありがとうございます。

田中さん、最初にお話しされますか。一番後でもいいですか。

【田中】 最後で。

【加藤】 最後でよろしいですか。分かりました。なぜ4つ画面があるかは、関係ないですね。

それでは、アジェンダに沿って、よろしく申し上げます。山崎さんがお休みとのことですので、今日は前村さんが議事録作成を含めて事務局をやっていただくということで、前村さん、よろしく願いいたします。

【前村】 よろしく申し上げます。

【加藤】 それでは、先ほどから飯田様のお名前が拝見できますので、まず飯田様から、特にGDC含めて、最近の状況の御報告をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【飯田】 飯田です。聞こえますでしょうか。

【加藤】 はい。聞こえております。

【飯田】 今日はあまりないので、簡単に御報告します。

GDCのほうは、我々のほうはRev. 4を待っている状態です。多分、先週のオープンコンサルテーションのほうはむしろ、我々ちょっと参加をしていないので、もし御参加された方がいらっしゃれば、雰囲気などを伺えればと思っているところですが、この後、Rev. 4が出てくると、すぐSilenceにまた入ることが予想されていまして、そのときに日本としてどうするか、あるいは、ライクマインデッドカンTRIESがどうするか、あるいは、G77がどう出るかというところを見守っています。

まだAIのところはもめる可能性はあると思うんですけども、だんだん煮詰まってきましたので、Rev. 4で決着するのか、あるいは、さらにブレイクされてRev. 5に行くことになるのかは、まだ出てきてみないと分からないんですけども、多分、オープンコンサルテーションでも、これまでの手続についても意見がいろいろ出たんじゃないかと思えます。透明性とか、マルチステークホルダーでの議論というのが非常に今回不足しているということを感じていまして、今後、残り少ないんですけども、そこをしっかりと国連側には意識してやってもらいたいと思っているところですので、オープンコンサルテーションでも何かあったようでしたら、お聞きできればと思います。

あと、IGFのほうなんですけれども、私どもから提案しているワークショップじゃなく、オープンフォーラムについては2つ、日程が大体決まってきたという感じで、Day 0とDay 1にそれぞれ、インターネットガバナンスというか、IGFの今後の推進というものとAI、この2つのセッションが入ることになっていますので、まだ最終確定していないんですけれども、我々としてもセッションの準備は始めていきたいと思っていますところです。また皆様に御協力いただくところもあれば、よろしく願いいたします。

私のほうからは今日は以上です。

【加藤】 飯田様、ありがとうございました。

飯田様への御質問、皆さんいかがでしょうか。特にございませんか。

【前村】 前村ですけれども。

【加藤】 お願いします。

【前村】 コンサルテーションの様子ということで、私自身はいなかったんですけれども、テクニカルコミュニティーのTCCMというコアリションから得ている情報としては、またTCCMとしてインターベンションの時間はもらったんだが、2分しかもらえなかったというようなことを聞いていまして、2分間で一応要部は言えることは言えたんだけど、シグナトリーの名前を並べることはできなかったぐらいのことを聞いています。

ちょっとそれ以上のことは知らないのですが、もしどなたかお聞きになっていらっしゃった方がいれば、教えていただければありがたいと思いました。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかに何か、先週ニューヨークのオープンコンサルテーション関係含めて、コメントいただく方いらっしゃいますでしょうか。

私も台湾にいて、夜、ニューヨークの、出られなかったんですけれども、同じようなことを台湾に集まっているTCCMのメンバーも、事前に、今日の夜あるんだけどということを昼間も言っていました。皆さん、今言われたように、コメントするとしたらたしか1分か2分だけという、何かそんなことらしいと言っていて、ほとんど何かコメントしたら言いっ放しで、そんな長い時間じゃなかったとも聞いているんですけれども、TCCMの方は、テクニカルコミュニティーの意見がGDCでは全然反映されていないので、それを引き続き言っているという、ステートメントもまた出されていましたよね。

そういうことで……。高松さん、手を挙げていただいているので、お願いします。お出になられましたか。

【高松】 実はちょっとオンラインで参加をしております、日本時間だと、ちょうど23時から開始していました。

【加藤】 そうですね。

【高松】 中身的には、今、加藤さんがおっしゃった、言いっ放しで、ひたすら意見を言わせていくというような場で、オンライン参加でしたけれども、私も目の前で見るのは、初めてでした。

何人発言できていたかまでは確認していませんけど、事前にレジストレーションした際に、発言をしますと申請していた組織などがそもそも発言の機会を与えられており、時間は組織によって3分だったか2分だったかというふうになっていました。厳しかったのが、全員基本オンライン参加なわけなんですけれども、制限時間を超えると、自動的にミュートになるという形で、強制シャットアウトみたいな状態になっていたという点です。間に合わなかった人たちは、事務局のほうに文書で送ってねと言われており、次から次に、とにかくレジストレーションしている人たちに発言をさせるといった場になっていました。

飯田さんもちよっとおっしゃっていた、マルチステークホルダープロセスみたいなのところを発言されている人もいたんですけども、個人的に印象に残ったのは、子供の人権といった系統の団体の方が複数お話しされていたことでした。24時30分になってもまだ発言予定者が残っていて、終わらないなと思いつ中で出てしまっていて結論はちょっと分かっていないんですが、とにかくたくさん意見を集めるという形は見えましたが、ただ、それが果たしてどのぐらいその次のGDCのRev. 4.0に影響を及ぼすのかといった辺りは、本当に個人的な感覚ですけど、出ていた意見も含めて、まともに全部採用は難しい気もするので、今後どうなるのかなと思います。以上、本当に感想ですけども、気になるなという程度の、ちょっとした様子の報告は以上です。ありがとうございます。

【加藤】 高松さん、ありがとうございました。

今の飯田様や高松様への質問とかあれば、いかがでしょうか。

ということで、どこに行っても、GDCは大分、以前よりはよくなってきたけれども、まだ透明性も全く確保されないし、そもそも9月のニューヨークはどういうふうに行われるかも分かる人は誰もいないという印象でした。

飯田さん、その辺、9月のニューヨークの進め方とか何か、少しは情報はあるんでしょうか。

【飯田】 すみません。我々もそこはまだ全然分からなくて、とにかく評判は悪いんですけど、前よりよくなったという、まさに今の加藤さんのお話のとおりで、あと、この残った時間でどのくらいましになるかという感じで捉えていますけど、ただ、これ、後を引くので、やっぱりクリティカルなところはどうしても譲れないところがあるというのは国によってはあって、そこら辺、最後、どの辺で折り合うかというところが、当然、途上国側とのやり取りもありますので、ちょっと心配して見ているところではあります。

本当にオープンコンサルテーションも結構ありがちな話なんですけど、ほとんどアリバイづくりみたいな、やったよという事実だけ残すみたいなやり方をしているように見受けられますので、その辺りは少し厳しく見ていって、言うべきことは言っていかなきゃいけないなと思っている次第です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、よろしいでしょうか。

それじゃ、飯田様、ありがとうございました。飯田様からの御報告とか、GDCの意見交換、これで終わらせていただいて。

【飯田】 ありがとうございました。

【加藤】 引き続きMAGからの報告ということで、河内さん、何かアップデートありますでしょうか。

【河内】 先週20日の夜にMAGのリモート会議がすごく久しぶりにあったので、その報告を簡単にさせていただければと思います。

ちょっと画面を……。

【前村】 ちょっと待ってください。一応、止めてみました。

【河内】 映っているでしょうか。

【前村】 映っています。

【河内】 これ、議事メモですけれども、まず、ホストカントリーからアップデートですけれども、まだ正式なアップじゃないといいながら、一応やっとなら公式サイトができたということで、ちょっとこれも共有させていただくと、今映っていますかね。これ、今年のリヤドのIGF2024のウェブサイトで、一応、Visaのアプリケーションとか、Register、Registrationは、結局UNのページに飛ぶだけですけれども、できています。こういうところは何か入っていますけど、About。あと、プログラムとか、全部Coming Soonになっているのは、まだ何も入っていないですね。サウジアラビアの情報とかは入っている感じですね。すごくのろくて何かよく分からないんですけど、一応つながっている。今月末までには正式なページとしてスタートするので、UN（音声途絶）のページと多分つながっていないんじゃないかと思うんですけど、今月末までにはちゃんと正式なスタートをしたいと言っていました。

戻って、ちなみにビザですけれども、入国ビザが3か月しか有効期間がないので、いろいろなビザの種類があるけどどうのこうのって言っていましたけど、3か月なので、今申請して出ちゃうと、エクスパイアしちゃうので、12月20日ぐらいまでなので、9月20日以降ぐらいに申請したほうがいいみたいなことを言っていました。

それから、7月の中旬から、これ、UNのほうのページのIGF 2024の参加登録ですね。これはもう開始していて、先週見た時点で千何人だったので、既に1,100人ぐらいが登録をしているということでした。これも後で見させていただければと思います。

あとは、Travel Supportが必要な場合は、9月1日まで申請受付中と。

それから、採択セッション数ですけれども、ワークショップだけではなくて、Day 0が34件、Launches & Awardsが12件、Lightening Talksが36件、ネットワーキングセッションが12件、オープンフォーラムが50件、NRIが1件と3つ、それから、DCが13スロットなどが正式に決まったということで、こちらも内々に来ているものなので、皆さん、画面でちょっとお見せするだけにしたいんですけど、実はドラフトなんですけれども、スケジュールが来ていまして、いつもと同じような形ですね。スケジュールが来ています。

これ、Day 0ですけれども、Day 1とか、それで、多分、それぞれのセッションのオーガナイザーには、あなたのセッションは何日のどこだから、もしスピーカーとかがほかとかぶってどうしても出られないとか何かそういうのがあったら、何日かまでに言ってほしいと。できる限りほかに替えられるように努力をしますというようなメールが来ています。

このエクセルはMAG宛てに配付されています。

それから、Roman Chukov氏という方が、前のMAGのメンバーだと言っていたので、多分、私が入る前じゃないかと思うんですけど、事務局、secretariatとして就任したと言っていました。取りあえずの担当は、新しく始まるJudiciary trackとBusiness track、それからMusic Nightを担当する予定だと言っていました。

それから、あともう一つメインのテーマは、MAGが企画するメインセッションでして、メインセッションも、6月末の対面会合で4つのテーマのセッションを行うということが決まっていたんですけども、その後、それぞれ希望者がそれぞれのグループに分かれて、7月、8月の間に会合を開いて、どんなふうな内容にするかとか、誰がモデレーターとかスピーカーがいいかとかいう議論をずっとしてきていて、その結果をそれぞれのグループの代表者が発表して意見交換を行ったということです。

テーマはもともと4つのサブテーマで、それぞれのサブテーマの中で、例えばこの一番上の「Enhancing the digital contribution to peace, development, and sustainable development」のテーマについては、このメインのセッションタイトルは「Protecting Internet infrastructure and general access during times of crisis and conflict」というタイトルで、あと、ポリシークエストとか、モデレーターやスピーカーの候補などについて議論しました。4つのそれぞれのテーマについて議論が行われました。

あとはいつものとおりで、DCとかNRIのセッションの企画の進捗についても、それぞれ報告されました。DCのほうは、私、あまり直接関わっていないんであれなんですけど、NRIのほうは、3つセッションがあるものが、私、ディスインフォメーションのテーマを担当しているので、その会合が今週の夜、あしたかあさっての夜、かなり久しぶりにあるので、そこでもう少し内容を絞って、多分ほとんどのセッションは、今月中までに内容をほぼほぼ固めたいというようなことを事務局では言っていました。

あとは、ワーキンググループの話、ユースエンゲージメントのワーキンググループがMentorプログラムというのをやりたいと言っていて、ユースインターネットガバナンスコミュニティから、要するに受ける、Menteeとなる人たちを募って、それに対してMAGとか、過去のMAGメンバーから、教えるほう、Mentorを募って、この10月から正式に、12月のIGFまでなので2か月半ぐらいの間に、リモート会議を月1回開催して、実際に12月のIGFの2024リヤドでのメインセッションなどに参加してもらって、レポートをまとめて、後日その結果について評価を行う、そういうようなプログラムをやりたいというふうな報告をしていました。

そんなところですかね。あと、Vint Cerfが議長をやっているリーダーシップパネルですけども、今月中頃に、これが20日に会議があったので、そのちょっと前だったと思うんですけど、リーダーシップパネルとMAGの連名で、GDCのコ・ファシリテーター宛てにレターを送って、今、GDCがまだアップデートされている途中ですけども、要するに、GDCの中で、例えば、AIとかセキュリティとかいろいろなテーマごとの別の組織をつくるのかという案とか、そういうものが出ていることに関して、GDC後、それがそういう別の組織の設立が重複にならないかとか、どういうふうにそれをフォローアップしていくべきなのかとか、そういうところについて特に書いたレターを送っています。

そんな感じです。次回の会合は、恐らく9月の中旬か下旬、Summit of the Futureの前に行えるかどうかという感じだと思います。

以上です。

【加藤】 河内さん、どうもありがとうございました。

皆さん、御質問とかございますか。

もしなければ、お考えになっている間に。前も伺ったんですが、このJudiciary trackとかBusiness trackについて、もう少しこういうものだとか、こういう準備をすとかというの何かあるんでしょうかね。

【河内】 今回の会議ではその報告は特になくて、担当者が新しい事務局員が担当するという話だけしかありませんでした。

【加藤】 先ほどのちらちらと拝見したスケジュールの中には、そのtrackとか、どれぐらいの時間に何かやるのかというのは、ヒントになるのがあるんですけど。

【河内】 すみません。ちゃんと見ていなくて。

【加藤】 trackというからには、1つだけじゃなくて、幾つかセッションがあるのかなと思うんですけどね。枠は少なくとも確保しているんですかね。

【河内】 ここにないですよ。Day2。区分けにはないですよ。区分け、色分けというんですかね。

【加藤】 大きな色分けにはないですね。

【河内】 ないですね。そうすると、こういう間にどこかに入っているかもという感じがすかね。すみません、ちゃんと見ていなくて。

【加藤】 どうなんですかね。だから、どれぐらいの時間どんなことをやるのかというイメージが全くつかめないんで、1つか2つのセッション分ぐらいなのか、例えば、Business trackという場合に、ICC BASISとか、何かそういうところに声がかからないままやるような内容なのか。

【河内】 いや、Business trackはもともとICC BASISがこういうのをやるべきという声明というか、ステートメントとか何かを出した結果なので、全くICC BASISを無視してやるのかということはないんじゃないかと思えますけれども。

【加藤】 だけど、ICC BASISからの、ちょっとこれも内部のあれだけど、何か時々報告みたいなメールが行き交っているのを見ると、あんまりこのことについて書いていたような記憶がないんですけど。

【河内】 まだこれから……。

【加藤】 これからやるんですか。

【河内】 あと、枠はどこか取っておかないといけないはず。

【加藤】 そうなんですよ。例えば、去年の京都ではICC BASISは別枠で事前に何かレセプションをやったりなんかやっていましたよね。だから、そういうのがそういうBusiness trackにある部分、入るのか。

【河内】 いや、あのレセプションは多分、毎回どこかでやっている。全然IGF本体とは別のレセプションだったんじゃないかと。

【加藤】 レセプションだけじゃなくて、何か少しミーティングをやっていませんでしたっけ、京都で。

【河内】 ミーティングは……。

【加藤】 やっていなかったでしたっけ。

【河内】 会議中に別の部屋で何かビジネスマッチングみたいなのをやっていましたけど、それとは別で、ちゃんと公式のプログラムとして。

【加藤】 そうですよ。だから、そういうのが内容的にtrackになるのであれば、どこかに接点があるはずなんですけどね。

【河内】 そうですね。でも、ここには入っていないですね。

【加藤】 もしまた分かれば、何か。

【河内】 分かりました。

【加藤】 ほか、皆さん、いかがでしょうか。特にないですか。

【田中】 ちょっと混乱させてしまうかもしれませんが、国連のIGFのサイトには、スケジュールのバージョン4が今載っています。

【河内】 載っていますか。

【田中】 はい。セッションとか、いろいろなものも、こちらのサイトからはたどれています。

【河内】 じゃ、そちらを見ていただいて。私のもらったのはバージョン幾つだろう。バージョン幾つとは書いていない。プライベートMAGというか、MAG用みたいな、ファイルの名前がタイトルになっているので、ちょっと分かりません。バージョンが幾つなのか分からないですけども、でも、これ、この間までなかったのと、20日に来たばかりなので、そんなに変わらないかもしれないので、もしあれでしたら、そちらを見ていただければと思います。

【加藤】 田中さん、何かそれで発見はありますか。

【田中】 特に。すみません。今議論されていた流れではなくて、ちょっと私の関係で見れていたものですから、スケジュールが出ているなど思った次第です。失礼しました。

【加藤】 皆さん、ほか御質問いかがでしょうか。特にございませんか。

【河内】 ホストのサイトはつながっていないですよ、まだ。ホストサイトにはまだつながっていないですね。

【加藤】 もし新しいのが出るのであれば、また出た段階でお願いしたいと思います。

もし御質問なければ、次、NRIに関してなんですけれども、前回、8月5日に活発化会議をやった以降、NRIの大きなミーティングはなく、今週あさって、それから今、河内さんが言われた3つのサブテーマのミーティングがあるという理解ですけど、河内さん、そ

うですよ。

【河内】　そうです。今週いっぱいあるので、ディスインフォメーションは私ですが、あと2つ、いつなのか、私のところに連絡が来ないんですが……。

【加藤】　たしか2日か3日後だったと思います。連絡が、私もAIのほうにいたので。ただ、大体的には大分前に決まっているので、あと、モデレーターが誰に最終的になったかという、その辺の調整だと思いますけどね。AIというか、エマージングテクノロジーですけども、そちらもそんな状況だと思います。

それと、メインセッションに関して、あさってのミーティングでは、タイトルをこの前決めるのに随分時間かかったというのを山崎さん、河内さんから御報告いただいた後、最終的にその中のモデレーターとかを割り振りを決めるという作業ですよ、今度。

【河内】　そうです。一応タイトルだけしか決まらなかったもので、コンテンツ、中身は、この2週間か3週間の間にみんなでGoogle Docsにいろいろな意見を入れてねという話はあったんですけど、それを受けて、水曜日かな、の会議で全部決めることになると思います。

【加藤】　NRIとしては、今そういう動きがありますということかなと思いますけれども、何かほかにございますでしょうか、御質問とか。

ここに来て、さっきの河内さんのお話どおり、今までなかなか公表されなかったワークショップ以外のDay 0だとか、オープンフォーラムだとか、そういうものを含めて、一応全部、最終決定があったという。それが今回の一番のアップデートかなと思います。

ここまでよろしいでしょうか。御質問ございますか。

それでは、ちょっとアジェンダに沿ってまた次に行かせていただきますが、その他会議に関する情報、GDCとかお話しいただいているんですけども、それ以外に何かございませぬでしょうか。これは、もし飯田さんほか、関与されている方であればですけども、今のところまだ……。

前村さん。

【前村】　アジェンダどおりだということであれば、APrIGFではないかと思えます。

【加藤】　失礼しました。ちょっと文字が小さくて、失礼しました。ごめんなさい。APrIGF、先にそちらに行きましょう。それじゃ、すみません。

じゃ、APrIGFに関する情報交換ということで、どうも失礼しました。APrIGF、ここにいらっしゃる方でお出になった方、立石さんとか、どなたかな。立石さんですかね。必要に応じて私もバックアップしますけれども、どなたか御報告いただく方いらっしゃいますでしょうかね。

【立石】　報告というほどじゃないですけど、すみません。

【加藤】　よろしく申し上げます。

【立石】　御存じのとおり、TWIGFと今年、APrIGFは同日開催ということで、一応、Day 0から私、参加してきました。去年の京都のUNのIGFに次いで、前乗りして行ったわけですけど、Day 0から村井先生も来て、キーノートスピーチをやっていただいて、Day 0なんで、

割と皆さん、ラフな感じだったんですけど、Day 1のほうが、朝行ったら突然警備がすごかったんで何かと思ったら、バイスプレジデントの方と、もう1人、何庁でしたっけ。デジタル庁かな。

【加藤】 デジタル庁の大臣です。デジタル大臣。副総統とデジタル大臣ですね。

【立石】 スピーチされて、中国語のあれも含めたレシーバーが要るよと言われたんですけど、皆さん全員英語でされたんで、やっぱり違うなと思いながらお聞きしていました。

あとは、やっぱり今年はAI関係が多かったなという感じですけど、相変わらず東南アジアの場合は、どうしても表現の自由の話とかも関わってくるので、それが多かったということと、すみません、最後、私は公表というか、直前まで分からなかったんであれだったんですが、私自身は、エコインターネットという、DotAsiaがやっている、インターネットの接続コスト、CO<sub>2</sub>から見たコストみたいなのを、インデックスを彼は、去年が2回目と言うべきか、2年目と言うべきか、レポートを出してしまして、それであるところで日本が一番効率よくやっているということだったんですけど、すみません、私、それを全然知らないで、どうしてなんだみたいな話をちょこっとしてきました。

あとは、個人的には特にDisaster Recoveryの部分、能登の。やっぱり台湾の例の、花蓮でしたっけね、あの辺中心で起こった地震の後のリカバリーの早さみたいなところは、常にいろいろ台湾としてはやっているということもあって、ちょっと今覚えていないんですけど、5日間でほぼほぼたしかインフラは復旧したかなというふうに言っていたと思います。

全体的にはたしか600余りの実参加で、900ぐらいで全部だったですかね、オンラインも含めて。だから、実参加がやっぱり多くて、オンラインで延べだと多分300とか400とかあったと思うんですけど、何かオンラインで見ていた人から聞くと、意外にオンラインは数十とかで、それは多分セッションによると思うんですけども、オンラインで来ている人が圧倒的に多いというイメージかなというふうに皆さんおっしゃっていましたかねと思います。

毎年毎年、APrIGFの内容が、当然、時代とともに変わっていくだけではなくて、割とシビアなところまで突っ込み始めていて、日本、その中で今年は何人ぐらいいたっけな。10人以上いたんですかね。TWといろいろやっているからということもありますけれども、近いということもありますけど、日本ももうちょっといてもいいのかなと。やっぱりインドネシアとか非常に毎年毎年、IGFが盛んなところはたくさんの方が来ていますので、もうちょっと頑張んなきゃいけないんじゃないかなというふうな感じがしました。

来年がネパール開催ということで恐らく固まっていたと思うんですけども、時期はまだ決まっていませんけれども、そういうふうに決まって、再来年どうするかということで、日本も手を挙げたいよという話を一応して、お話するからだと思うんですけども、言った人には全員ぜひやってくれと。十何人ぐらいに話したんですけども、それはいいね、ぜひやってくれというふうに言っていただきましたので、ちょっと来年ネパール、その後の再来年に向けて、どういう形でやるかということは分からないですけども、取りあえず何らかの形で手を挙げて、ちょっと今年ミスっちゃったので、再来年に向けて用意したいかなというふうに思います。

すみません。ちょっと私、数字を結構適当に言っちゃっていたんで、それも含めてもし加藤さんはじめ、行かれた方からありましたら、お願いします。

【加藤】 ありがとうございます。

それじゃ、数字をちょっと申し上げますと、全部で現地で登録した人が644人って言うていました。一番最後にEdmonが締めくくりでそういう数字をずっと説明していたんですけど、644人が出席をしたと。これ、現地でゲートを通りかかるところの登録をした人ということで、結構多かったかなという数字ですね。去年のオーストラリアのブリスベンが、現地参加した人が300人前後と言っていましたので、人数的にはその倍ぐらいいたかなと。それ以外にオンラインで登録している人が600人以上という言い方をしていました。さらに、ログインを1回でもしているログインの回数、これ、延べなんだと思うんですが、1,700以上あったと言っていました。

それから、会議は全部で27セッションあって、やはりその中で一番多いのがAI関係で5件ということで、何か別トラックみたいに書いてあるところにAIというのが2日目とかずっと入っていたのもあって、AI関係が数としては一番多かったように思います。

それから、登録者も、49%が男性、46%が女性、5%は不明と言っていました。オードリー・タンも来て、最後スピーチしたりしていましたが、パネルで出ていたけど、彼女は不明のほうに入っているのか、女性に入っているのか、ちょっと分からないですが、先ほどの最初のほうの人とは別に、最後のほうにそういうのがありました。

そういう意味で、数、27セッションというのは多いか少ないかという、私は思ったよりあんまり多くなかったかなという印象があったんですが、実は今回非常にユニークなのは、APrIGFを3日間やったんですけども、それと並行して、TWIGFをずっと同じ日に別トラックでやったんですね。そちらは中国語をベースで結構やっています、実はTWNICの幹部が後で、それを並行してやったんだけど、ほとんどの人がAPrIGFのほうに行っちゃって、TWIGFのほうは人数があまりいなかったの、あれはちょっとやり方は失敗だったということも内部では漏らしていました。

だから、こういうやり方が今回いいかなと思ってやったようなんですが、そういう問題があって、逆にTWIGFのほうで面白そうだなというセッションにちょっと顔を出してきたんですけど、全く中国語でやっているようなセッションで、何をやっているか分からないようなのもあって、ちょっとその同じ会場と同じように横でやっていたんですが、その辺の進め方はうまくいかなかったかなというところもありました。

ただ、最初申し上げたように、現地での出席者も多いし、昼も夜もちゃんとレセプションをいろいろやってというのは、非常に十分準備された会議だと思いました。

それから、サイトを見ていただくと分かるんですけども、スポンサーが、当然、台湾の会社も若干あるんですが、MetaとGoogleと、それからLINEがかなり大きなスポンサーだったようで、例えば、LINEは2日目の夜、大きなレセプションをやって、遠くにみんなをバスで運んで、LINEの本社だと思いますが、三、四十分バスで行く、町の離れたほうでかなり盛大なディナーをやったというようなことがありました。

台湾は、そういう意味でアメリカ系、LINEはアメリカ系ではないですが、LINEが日本以上にSNSで盛んなようですが、それがかなり積極的に活動していると。Meta、Googleって言いましたが、MetaとかGoogleの人が、スポンサーをやりながら同時にいろいろなセッションに結構出ていました。

そういう意味で、台湾の人以上にいろいろポリシーに、台湾の中でいろいろ関係しているみたいなのもありますし、東南アジアのいろいろな国の報告をする。例えば、MetaのA

ジアパシフィックのヘッドクォーターがシンガポールにあって、そのゼネラルカウンセルが結構いろいろな話をしたりとか、そういうような雰囲気、これ、今回特に特徴的だったと思います。

それから、一方では、やっぱり台湾開催ということで、中国からは、私の知っている限りでは直接中国の人は出ていなかったですし、もちろんCNNICやそういう人は全く出てないということで、大陸からの人はいない。ただ、もちろんどットアジア含めて、香港とか、そういうところからの参加はありましたけれども、大陸からの参加はなかったということと、去年も、例えばIGFの事務局からAnjaが出てたんですが、今年は事務局からも誰も出ていなかったと思います。

立石さん、もし違っていればあれですけど、私は、そういうIGF事務局とのコネクションとか、事務局がそこでリモートでもいいから何か参加して話すというのがなかったように記憶しています。

【立石】 そうだと思います。

【加藤】 一方では、最初、立石さんからお話があったように、村井先生をはじめ、かなりいろいろな方が話をしている、特にシャオというんですかね（蕭美琴Hsiao Bi-khim）、今の副総統ですね。もともと神戸生まれの女性で、非常に海外でも活躍して、最近になって台湾の副総統に選ばれて、ある人いわく、最も中国本土から恐れられているとか、嫌われているとか、そういう人だという方が、すごく上手な英語でいろいろな演説をされたというのも非常に印象的でした。

さらに、Vint Cerfがビデオで参加していました。これも名前があったんで出るのかなと思ったら、さすがにビデオで、このところVint Cerfはなかなか主張を全部カバーするのが大変なので、セレクトティブにやっているという感じで、そういう意味で、村井先生が随分御活躍されて、基調演説の最後にスライダーを使ってインターネット全体のお話をされて、ほかの方々も挨拶的な、Vint Cerfの話も含めて挨拶的な話だったんですけど、村井先生だけは基調演説的なお話でありました。村井先生は、その前日とかその後のセッションとかもパネルで参加されたりして、そのようにセッションまでいらしたということでした。

そういう意味で、今回、TWNICの方々、幹部の、いつものKenny HuangだとかKuo-Weiだとか、皆さんが、ぜひ日本ともっともっと協力して、日本のIGFのグループとも一緒に何かやりたいというようなことを盛んに言っていて、非常にホスピタリティも高かったように思いました。

ということで、内容的には、いろいろメモを取ったので、もしあれであればお話はできますが、私、1つセッションに参加して、この活発化チームでもよく参加されている上村先生がモデレーターをしていただいて、マルチステークホルダーの在り方のようなことを議論しまして、去年、京都ではみんながマルチステークホルダーという話をしたんですけど、ここに来て、マルチステークホルダーというのは本当にうまくいっているのか、本来どういう在り方がいいのかということを議論する場に参加させていただきました。

今回、先ほど前村さんからもあった技術者コミュニティー、特にccTLDの方々がTCCMというコアリションをつくって、マルチステークホルダーとして、いろいろもっと意見を聞いてもらいたいという主張をされて、その方々のセッションもあって、そこでも議論したんですけど、ここに来て、かなりマルチステークホルダーの在り方、それこそIGFの本質じゃないかという議論が高まってきているようにも感じました。

個別にはいろいろほかにもありますけれども、私から主に雰囲気的に申し上げたいことは大体それぐらいでありまして、もし立石さん、写真とかでこれはというのがあればあれですけれども、なければ……。

【立石】 すみません。今……。

【加藤】 ちょっと時間のこともあるんで、あんまりあれですけど、イメージとしてそんなお話でありました。

【立石】 最後までにもし出せそうだったら出します。

【加藤】 御質問等あれば、いかがでしょうか、皆さん。特にございませんか。

それじゃ、台湾の話はそれで、いろいろなところからまた報告があると思いますので、それは引き続き見ていただくとして、それ以外の会議ということで、ちょっと私、さっき先走っちゃいましたけれども、何かの追加で御報告いただくようなこと、どなたかございますでしょうか。

前回の会議以降、特にWSIS+20では何か会議があったとかというのは聞いていないんですけども、何か情報があればと思いますが、いかがでしょうか。

飯田様から、特にその辺、ございませんか。GDCはカバーしていただいたのと、前村さんも、NETmundial+10のその後って、特にもう今のところないですよ。

【前村】 特にありません。それこそAPrIGFのセッションで久しぶりにNETmundialという単語を口にしたという感じでした。

【加藤】 そうですね。それはぜひ前村さんも含めて、NETmundial+10のことを御紹介いただくセッションが1つありました。前村さんもリモートで御登場されたんですけども、そういうのもありました。それもやっぱりマルチステークホルダーというコンテキストが一つ大きな切り口だったように感じました。

【前村】 そうですね。あれはとてもTCCM的なセッションだったと思います。

【加藤】 ということでよろしいでしょうか。もしあれば、また後で御質問等いただければと思います。

じゃ、アジェンダに沿って次の項目に移らせていただきます。この活発化チームの今後について、法人化の動きを検討するという、準備委員会の状況ですけれども、実は前回に、52回目の活発化会議で、主にJPNICさんとJAIPAさんでそれぞれ定款を提出いただいたものを受けて、準備委員会で個別に議論して、非常に進展があつて、それを両方の意見がほぼまとまったので、その議論を受けて、定款案を一本にするということで、根岸弁護士が、2本の定款をまとめたものをチェックして、1つの定款案をつくっていただきました。

これ、数日前にドラフトが出まして、根岸先生から、確認事項的に幾つかこれでいいかどうかというお話をしたいという御提案がありましたので、一応、もう一回準備委員会の方々に集まっていたいで、根岸弁護士の一本にまとめた定款案を最後、もう一回みんなレビューをする会を今企画しています。今、調整さんを回していただいて、今週か来週のどこかで次の第17回の準備委員会をやるという段階に来ております。ワーディングを見る限り、かなり近づいているというか、オープンアイテムが少ないので、これでほぼ定

款案がまとまって、次に進めるかなという気がします。

委員の中から、定款を決めた上で、それじゃ、最初の発起人会とか理事会のそれぞれメンバーをどうするかという、その辺の調整をしたいということで、その辺についても、この活発化委員会の今いらっしゃるメンバーからも御意見なり自薦・他薦があればお話しただければと思いますが、今、そういうことを次、議論しようという段階に来ております。

私の理解は大体そういうところなのですが、前村さん、メモを取りながらで恐縮ですけど、何か追加いただくこととか、ございますでしょうか。

【前村】 大丈夫だと思います。

【加藤】 すみません、メモを書きながらで。

【前村】 いや、それはいいんですけど、根岸先生からいただいた定款のほう、読みはして、幾つか気になるところがあって、それをコメントしなきゃとかという感じなので。あと、調整さんのほうも全然入れていなくてすみません、JPNICのほうから。という感じなんですけれども。

【加藤】 もうかなり皆さん入っているんで、よろしくお願いします。ただ、日程が限られるのと、根岸先生自身の時間でオーケーな部分がかかなり少なかったんで、ちょっと調整に時間がかかっているという、今、そういう状況ですね。

【前村】 はい。

【加藤】 立石さんから何か追加とかございますか。

【立石】 いや、私のほうはそれに関しては今のところは特に、若干、中で話はしてはいるんですけど、特に追加は、今は、すみません、ないです。

【加藤】 分かりました。

御質問ございますでしょうか、今の状況で。かなり時間がかかったけど、やっと最後、少なくとも定款のところは収束に近づきつつあるということかなというふうに思っています。

それでは、この件、特にほかの御質問なければ、次に移らせていただきます。この活発化チームとして非常に大きな、1年に1回の会合ですけれども、11月の5、6、7、8のうち2日間程度を前提として、国内のIGF会合を行うということで、先日、有志の方々といひますか、準備委員会として手を挙げていただいた何人かの方々にミーティングをやりまして、これも前村さん、山崎さん、御活躍いただいでいて、ここに出していただきましたけれども、これ、山崎さんが過去のをベースに、今回議論するアジェンダをつくっていただいたものです。

それで、ちょっと止めていただいでいいですか、上のほうに。ちょっと私からまずあれしますか。前村さんから説明していただいてもいいんですけど、どうでしょうか。

【前村】 いや、加藤さん、お願いします。

【加藤】 まずよろしいですか。ちょっと山崎さんが移動中で、台湾に着いて直後にミーティングをやったとか、そういうこともあって、あまり細かく深く議論できなかったんで

すけれども、この最初のところにありますとおり、いろいろなことを順にやっていくというんで、その次のところ、スケジュール案のところをちょっと見せていただけますか。

まず、イベントの位置づけの決定ということで、一応準備委員会では、これ、何を言っているかという、2022年までは、日本インターネットガバナンスは、当然、IGFの国際ルールに基づいて、日本のIGF会合だという前提で、いろいろな方々からセッションの応募をいただいて、提案をいただいて、それをセクションしてプログラムとしてまとめるという、そういうプロセスだったんですが、昨年の23年だけは、京都のIGFに出席が基本的に決まった方が事前にお披露目をするといいますか、準備をするという位置づけで、京都で発表するセッションの顔見世興行を日本語でやるという色彩が強かったんですが、準備会として先週出られた方々皆さんの御意見としては、当然また、ここに黄色でハイライトしていただいているとおり、一昨年までのフォーマットに戻すと。そういう意味でセッションは公募するという、今日この場で御承認いただければ、その方向で早速、公募の手続に入るといえることがまず1つ決まりました。

それから、もう一回、先ほどの上のほうに、前村さん、戻っていただけますか。会議自身の、プログラム委員会の始動ということで、先日からスタートしましたし、テーマの決定なんですけれども、テーマとしては、ちょっと細かいワーディングはまたメールベースでやり取りとかということになります。先週の時点でも、例えば、AI時代のインターネットとか、デジタル社会についてとか、そういう少し広い名前にしたらどうかということ、それを活発化チームとして選んでいただきたいということになりました。

ここにありますとおり、AI時代のインターネットとデジタル社会、また、AI時代のインターネットガバナンス、このような話が出たんですが、皆さんいかがでしょうか。できれば、今日この活発化会議で、大体こういう線でこの会議自身の名前をつけたらどうかということを決めていただければというふうに思います。

実はこの議論の途中で、例えば、Beyond WSIS+20とか、Beyond NETmundialとか、GDCとか、そういうのもどうかという案とか、それから、今こそマルチステークホルダーイズムについて問うとか、そんなような案も出たんですけれども、一般の方々にいろいろ広いテーマでこの会議で参加いただくということだと、あまりにも限られた内容について議論するというふうに見えてしまう。これ、会議全体のテーマというのは、中身とは関係ないと言えば関係ないんですけれども、そういうふうに見えてしまうのはどうかということで、会議の一番大きなテーマは、ここにありますような広いテーマがいいのかなという案が出ました。これはちょっとこの後、これだけは今日決めていただければということなので、皆さんでコンセンサスをつくっていただければなというふうに思っています。

もう一回スケジュールのところに戻っていただいて、その前提で、山崎さんがお戻りになってということになると思いますが、もう一回、9月早々にセッションの公募をしたいというふうに思っています。これもどんなテーマでも結構です。IGFに関わる、どなたでも結構です。お願いする中で、11月5日から、5、6、7、8のどの部分がいいですかということも応募の中に書いていただくということを考えています。

それらについて選定するのは、今考えている、準備委員会のみんなにまずらせていただいて、当然、次の活発化会議で御報告できるタイミングになると思いますが、まず我々はその辺の議論についてお任せいただくというふうに考えています。

あと、キーノートとか、いろいろな外部のスピーチをお願いする方も並行して考えさせていただきますが、先ほどの台湾での会議のように、TWIGFの例もそうですけれども、例年、村井先生とかにお願いしていますが、そういう先生をお願いするか、また今度は

Vint Cerfにビデオをお願いしたらどうかというような、そんな意見もありましたけれども、何かこの人がいいんじゃないかという案があれば、ぜひお願いしたいというふうに、御提案いただきたいというふうに思っています。

ということで、今日、大体決めようということをお願いしたいのは先ほどのテーマですね。いかがでしょうか。もう一回、これを下のほうにスクロールしていただいて、前村さん、よろしいでしょうか。今出ているところでは、AI時代のインターネットとデジタル社会とか、AI時代のインターネットガバナンス。私は、個人的には、インターネットとデジタル社会と言ったほうが、インターネットガバナンスと言うより広い人に刺さるのかなという気もしますが、皆さん、いかがでしょうか。これ、ぜひもっといいものがあれば、この場で皆さんの御意見を伺えればと思いますが、いかがでしょうか。特にございませんか。

【前村】 前村ですけれども、おっしゃるとおり、インターネットガバナンスという言葉が分かりにくい。テーマというか、会合名もインターネットガバナンスフォーラムとかいうんで、それは会合名で言っているんじゃないかというふうなこともあります。

それで、AI時代のインターネットとデジタル社会というのは、一般的でありながら、AIも入っているし、AIが変えていくデジタル社会みたいな、耳目を集めやすいキーワードなんじゃないのかと。なおかつ、あまりスペシフィックではないという、何か絶妙な感じがするなと思っています。

【加藤】 AI時代というだけで少しみんなの注目を浴びるのと、だけど、AIのことを言うんじゃないという意味で、こうやって書けば、それは明確なのかなという、そんなようなことかなと思うんですけどね。

いきなり振ってあれですけど、例えば、片柳さんとか、飯田さんとか、政府の方から御覧になっていかがですか、この辺。日本でやっていただいて、場合によっては講演をまたお願いすることになるかもしれないですけども、いかがでしょうかね。特にこれはまずいとか、そんなことはございませんか。

【片柳】 すみません。話を振っていただいて、恐縮です。特に意見なく、ありがとうございます。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。特に大きな異論はないということで。

【片柳】 はい。

【加藤】 じゃ、皆さんいかがですか。AI時代のインターネットとデジタル社会ということ、今日の活発化会議で仮決めさせていただくということでもよろしいでしょうか。まだ実際の通知までには若干時間があると思いますので、もしすごくいい案を思いついたという方はメールで言っていただければと思いますが。あ、石田さん、ありがとうございます。

それじゃ、取りあえずそういう全体テーマということで、中身は例によっていろいろな方にいろいろなセッションをやっていただくということを期待する、そういうことで進めさせていただければと思います。

あと、もし御質問なり御提案があればですけども、取りあえず今日ここまで来たので、その前提で一般の公募をなるべく早くさせていただいて、できれば9月中ぐらいにはいろいろな方からいろいろなものを御提案いただくということで、その下にスクロールしてい

ただくと、10月頭には選定が終わるということですね。山崎さん、随分メモを取っていたので。大体9月中にはいろいろな方に声をかけていただくということ。

セッションの例で、皆さんちょっとブレインストーミング的にいろいろな話が出たんですけども、実積さんの米国体験記ということで、御承知の方も多いかもしいませんが、今、よくIGFに今までも出ていらした実積先生が、8月いっぱいまでアメリカのジョージタウン大学でサバティカルでいろいろな経験をされたんで、それを踏まえていろいろブロードバンド関係のお話をいただけるかもしれないということ。

それから、前村さんのAFRINICのお話、これは話題として中身を知りたいという人も結構いるので、こういうのも面白いかなという話。

それから、立石さんが何度かいらしている中央アジア、ウズベキスタンでユースがいろいろと活動しているというのを踏まえて、何かそういうのを言っていただくのと、場合によっては、ウズベキスタンの人って、立石さん、日本語を結構できる人がいるんですね。

【立石】　そうです。はい。インターネットガバナンスという話の中身がちょっとあれかどうかは別として、日本語は上手な方がかなりいらっしゃるんで、直接日本語でできるかなと思っています。

【加藤】　これも一つ新しい試みとして非常に面白いかもしれないので、ぜひこういうことができるのであれば進めていただければどうかなというような話ですね。

あと、過去にいろいろな会議に出た方とか、それから、総務省の方、今度、6月で体制が変わったので、幹部の方、ぜひ御挨拶いただければと思いますので、この辺も飯田様、片柳さん、よろしくお願いします。

それから、村井さんなどに話してもらおうとか、「など」って何かちょっと失礼ですけども、村井先生とか、海外のビデオレター、先ほどの台湾と同じように、Vint Cerfさんにも登場していただくというのもありかなというふうに思います。

このような話を準備会合ではしました。ぜひこれに付け加えていただければ、少なくとも2日間、4つから6つのセッションぐらいはできるかなという、そんな印象を皆さんで持たせていただいた状況です。

いかがでしょうか。御質問とか御意見等ございますか。ぜひいろいろと今ここで御提案いただければ、それを次の準備会合で反映できると思いますけれども、いかがでしょうか。特にございませんか。

じゃ、恐縮ですけども、そういう線で準備会合は進めさせていただきたいと思います。

準備会合が、例年になく人数が、今、4人プラス、高松さんもできる限りという前提で、5人が正式に準備委員会に登録していただいているんですが、ボランティア大歓迎ですので、ぜひ今日以降、一部だけの活動でも何でも結構ですので、出られる限りの活動でももちろん結構ですので、少しでも御協力いただける方は、メーリングリストで御連絡いただくか、前村さんや山崎さんや私にメールをいただければ、それで自動的に登録させていただきますので、よろしくお願いします。

ということで、11月はぜひこの形で進めさせていただくということで、まだ若干時間があるので、もしお帰りになる方、退席される方、それでも結構ですが、先ほど立石さんか

ら写真がありますというふうに言っていたんですが、台湾の写真ですよ。

【立石】　そうです、そうです。台湾の写真、もし……。

【加藤】　もし御興味があればという前提で、ちょっと10枚程度なら、こんな感じだったという印象を見せていただけますでしょうか。

【立石】　すみません。じゃ、画面……。

【加藤】　前村さん、一回、画面を落としていただかなくちゃ。

【前村】　奪っていただいても大丈夫ですけども、落としますね。

【立石】　じゃ、これで大丈夫かな。これ、ちょっといきなり地図のあれなんですけど、順番が撮った順番なんで、話が前後しちゃうんですけど、すみません。

これはいいのか悪いのか、グローバルウォーミングで、北極海の氷が解けたので、これ、誰が言っていたのか、後で多分出てくると思うんですけど、海底ケーブルを、今、全部、何だかんだ言って結局アメリカにコントロールされているので、アメリカにコントロールされないヨーロッパまでのルートがあるべきじゃないかという話が、Day 0のときだったんですけど、ありました。そのときにこういうスライドで、やっぱり台湾という国じゃなくて経済圏というところでの微妙なところとかの話も含んでくるのかなと。

こんな話を、TWのKuo-Weiさんと村井先生が、これ、Day 0のときにされていたという話です。海底ケーブルの話、これだけじゃなくて、ユーザーが、チャールズ・モックが言っていたのかな。ユーザーさんはみんな、もうケーブルなんてなくても大丈夫だろうと思っているけど、いやいや、アンテナの下までケーブルが行っているということは、やっぱりもう一回みんなに見直してもらわなければならないかみたいな話をされていました。

私も全く同感で、5Gのときにその話を某国会議員に持っていったら、ちょっとえらいことになって大変だったんですけど、やっぱりそういうことをちゃんと認識してもらわなければならないなと思いました。

これがDay 1の始まる直前ぐらいですね。真ん中あたりに村井先生とかKuo-Weiさんもいらっしゃいますけど。

これがデジタル庁の大臣でしたか。

【加藤】　そうですね。デジタル大臣ですね。

【立石】　ちょっと発音が、私は難しくって言えないですけど。

それから、これが副総統でしたっけ。

【加藤】　副総統ですね。

【立石】　女性の方でした。

さっき加藤さんがお話しされたVint Cerfさんは、こんな感じでビデオメッセージで出てこられたということです。

我々も時々やるんですけど、ランチセッションというのを、うまいなと思ったのは、これ、Googleのランチセッションですけど、普通だとみんなで食べながらなんですけど、取りあえず食べてもらっておいて、その間にビデオを見せておいて、暗くなって、ある程度そろそろ落ち着いた頃に、前に行ってプレゼンテーションするという。我々もランチセッションをやるんだったら、こういうふうにやらなきゃいけないのかなという、非常に参考になる話でした。

それから、これがDay 1の夜だったかな。ソーシャルネットワークキングのほうで、後で実はたまたまこれの企画をされた方の話を間接的に聞いたんですが、結構やっぱり大変だったみたいです。これ、例の台湾の伝統的な太鼓のあれだったと思うんですけども。

これがそのときのTWNIC、TWIGFの面々ですね。

会場が……。

**【加藤】** 今の皆さん、ちょっともう一回、一番左がTWNICの今のCEOですね。

その次が、アムリタ（チョードリー氏）が、APrIGFの今のチェアというんですかね。彼女が、次どこでやろうとか、そういうことを決めるような立場にある人ですね。

真ん中の人は見たことないんですが、この人、ユースのセッションの代表者みたいな人ですよね。ちょっと名前があれですけども。

Kenny HuangとKuo Wei WuはTWNICのいつもの顔ですけども、要するに、TWの幹部プラスAPrIGF。Edmonとか、いつものドットアジアの人たちも出ていましたけど、この壇上はむしろ彼ら、Edmonなんかは裏方みたいな立場でやったので、TWNICが主体で、こういうところで挨拶したという感じでしたね。

すみません。

**【立石】** いえいえ。すみません。ありがとうございます。

これが何とか医学センターというところで、これ、多分、8年前のAPrIGFもたしか同じだったと思います。同じ場所だったと思います。国際会議場です。

これがWGで、人数はちょっと少なかったんですけども、2つのグループに分かれて、割と若者が中心に、ユースじゃないんですけども、話をしていたかなと思います。途中から入ったんで、私、中身はあまり把握できていなかったんですけど。

これが加藤さんと上村先生のセッション。それから、アムリタですね、真ん中。

それから、ネットワークキングは、これがLINEの台湾事務所で、ちょっと遠かったんですけど、呼んでいただいて、そこで立食パーティーをやったときの、これがその面々ですね。この辺が、真ん中あたりが、LINE台湾の責任者だったと思います。

**【加藤】** 日本からもLINEの方がいらしたって言っていましたね。

**【立石】** そうですか。私、その方はお会いしてなかったです。

それから、これ、真ん中が、今もう（大臣を）辞めちゃいましたけど、オードリー・タンさんと、右の人が、ちょっと名前、インドの人でしたっけね、この方。

【加藤】 そうですね。

【前村】 Raj SinghはAPNIC FoundationのCEOですね。

【立石】 この一番右の人が……。あれ、これ、違うな。すみません。ちょっと勘違いしていました。すみません。私は顔と名前が一致しなくて。これが何のセッションだったらちょっと分からないですけど、たしか最後あたりのセッションだったと。

【加藤】 今のセッションは、最後のクロージングのパネルですか。

【立石】 そうですね。クロージングの、これ、最後ですね。

すみません。写真は以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

【立石】 こちらこそすみません。

【加藤】 それでは、あと次回どうするかということで、最初に前村さんから映していたスケジュールでは、3週間後は9月16日祝日で、17日にしましょうか、4週間後の23日か24日のどちらか、24日にしましょうかと、これを出していただいたんですが、いかがでしょうかね。どちらかが何かの会議に引っかかるとかというのは、皆さんございますか。

唯一可能性があるとしたら、例のニューヨークのSummit of the Futureは22日から23日のところであるんで、我々日本だと24日は難しい可能性があるんですが、多分、これに行くというのはあまり可能性が皆さんないかもしれないんですが、だけど、オープンセッションみたいなのがあって、ネットで参加できるとなると、ちょっとそっちを避けたほうがいいかなというのは若干は思いますが、いかがでしょうかね。

高松さんは17日の週は出張で駄目。

【前村】 私の都合じゃないんですけど、17日は夜行便で帰ってきて、お休みをいただいているんですが、お休みというぐらいなんで、空いています。ただ、高松さんはAPTLDミーティングのはずですね。いらっしゃらないということだと思います。

【加藤】 皆さん、どうでしょうか。今のように、私はどちらがいいというのはございますか。遠慮なく言っていただいて。

【前村】 大変恐縮ながら、24日だと私は都合が悪くて、欠席になります。

【加藤】 そうなんですね。それは、だけど、大きなファクターですね。

総務省の方は大丈夫ですか、どちらでも。お返事がないということは、大丈夫という。

【片柳】 すみません。飯田が今ちょっと別件対応で席を外してしまいましたので、ちょっと確認させていただければと思います。すみません。

【加藤】 じゃ、取りあえず前村さん、高松さんには大変申し訳ないんですが、前村さんが……。

【前村】 24日は前半の1時間は大丈夫ですと申し上げておきます。

【加藤】 どっちがいいですか。24日の前半と17日の休日返上と、どっちがいいですか。

【前村】 私は24日のほうがいいです。すみません。

【加藤】 じゃ、ささっと終わる前提で、24日でいきましょうか。高松さんにも参加していただくということで。

じゃ、次回は24日、同じく17時からということで、もしどうしても何かの理由で、さっきのニューヨークの会議とかとなれば、ちょっと変更のメールを出すかもしれませんが。

【高松】 すみません。24日、夜はミーティングが入っており、参加が難しいかもしないです。

【加藤】 そうなんですか。

【高松】 申し訳ないです。

【加藤】 一番大事な方が。

【高松】 すみません。皆様の御都合で、調整いただければと思います。

【加藤】 じゃ、申し訳ないですけど、前村さんのお話で、前村さん、1時間をめどに終われるようにということで、24日の17時からということでお願いしたいと思います。

それでは、最後にその他というところで、田中さん、お待たせしました。お話しいただくことがあるということですが。

【田中】 表示いただきまして、ありがとうございます。6月までITU協会におりました田中でございます。7月からNICTで勤務しております。

全く個人的な活動でございますけれども、10年ほど前から、自宅と、私の姉の家なんですけど、ウェブサーバーと呼ぶのもお恥ずかしいような、NASを置いて、公開しております。固定アドレスも取っておりませんし、DNSも登録していないという、グラスルートというよりも、野良サーバーのようなものでございます。ただ、おかげさまで11年ぐらい動かしておりますけれども、二重化、三重化しておりますので、ダウンタイムは実質ゼロということで使っております。

ということで、このコンテンツがいい、悪いではなくて、こういったものが、特に途上国のように投資の厳しい国で使えるかなと思ひまして、応募してみたんですが、採択をされました。

ということで、私としては現地に出向きたいと思っておりますが、何かオンサイトモデレーターが必要なようでして、兼ねていいのかどうかちょっとよく分からないんですけども、現地に行かれる方で御協力いただける方がいれば、ぜひよろしく願ひします。

なお、完全に個人の取組なんですけど、私、今、国研といひますか、国立情報研究機構、そういった組織におりますので、本当に個人でいいのかどうかといひのは、ちょっと内部でお伺いを立ててといひることを今しようとしております。

ということで、かなりゲリラ的ではございますけれども、去年、京都に行かせていただいて、やはり非常に幅広い方がいろいろなお話をされていることに刺激を受けまして、ぜひ

ひ参加させていただきたいと思った次第でございます。また皆様からいろいろ御指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【加藤】 田中さん、ありがとうございました。ぜひサウジアラビアへいらっしゃる方で、お互い情報交換しながら、御協力できるところは協力し合っってということで、よろしくお願いいたします。

【田中】 スポンサーも募集中でございますけれども、ちょっとその辺、もしもあれば、よろしくお願いいたします。

【加藤】 スポンサー募集中というのもぜひメモに書いていただいて。

【田中】 いやいや、結構です。いいです、いいです。場合によっては、身銭を切っって行きたいと思っています。大げさに言えば、私、電電で40年前、加入者系に光ファイバーを入れる仕事をしていたんですけれども、やっとFTTHの上り回線ですよね。上りの太いところが使い方の一つかなという気持ちもあってやっております。

そういう意味では、大げさに言えば、日本のFTTH、長い間、私、海外でプレゼンすると、相手は、言葉では素晴らしいと言うんですけど、目は完全にばかにされていまして、使えない光ファイバーを個人の家まで引いているとってばかにされてきたんですが、最近ちょっと潮目も変わったかなと思っております、そういう意味では、NICTも光ファイバーの開発を長期にやっておりますし、FTTHも、ある意味、日本では正直、もう話題にもなっていないと思っております。

そういったものの、ただ、ITU協会で途上国の方とお話ししていると、当然そんな国ばかりじゃないものですから、日本の優位性ということもありますし、あるいは、4Kのカメラから何も、ヨドバシカメラへ行ったら買えるということは、ある意味、素晴らしいことだと思いますので、その辺も世界に見ていただいて、また途上国のお役にも立てるんじゃないかというふうに思っって、ちょっと大風呂敷でございますけれども、そういう案件でございます。

以上でございます。

【加藤】 ありがとうございます。

御質問、御意見ありますか。

今後、サウジアラビアが近づくにつけて、ぜひ情報交換、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、これ以外に何か御披露いただくこととか、御意見いただくこと、皆さんございますか。特にございませんでしょうか。

それでは、今日も長い時間ありがとうございました。次回は9月24日ということで、よろしくお願いいたしますと思います。それ以前に、準備委員会に御参加の方々、よろしくお願いいたします。

今日も長時間、どうもありがとうございました。これでお開きにしたいと思います。ありがとうございました。